

新規利用登録団体紹介

循環を生み出す「シビックエコノミー」
- 入門講座開催報告 -

■ YouthCreate

「子ども・若者」が日本や自分の住んでいる地域へ主体的に関心を持ち、政治参加を行う、その意見が政治・行政の議論の場に載る状況を目指します。そして、政治への関心を持つことが、「かっこいい」と思われる社会を目指し、若者と政治が交わりやすい場づくりや、仕組みづくりに重きを置いた活動を行い、ワークショップの実施やインターネット上でのキャンペーンなどを行っています。
<http://youth-create.jp/>

■ 動物と暮らしやすいまちづくり会

中央区における「人と動物との調和のとれた共生社会」の実現を目指すために、コミュニティカフェを通して「ペットの適正飼養及びマナー普及」のための活動を行い、また野良猫対策や負傷動物の保護等への協力支援、災害時における動物管理への協力支援も行っていきます。
<http://hcfajp/>

■ プラチナ・ギルドの会

豊富な経験から培ってきた様々なスキルを、次代を担う世代のために、そして新しい社会の構築のために活かしてみたい。そんな「アクティブ・シニア」たちのプロボノ集団です。社会デビューしやすい環境を整備するために、座学・活動家の実体験発表・現場訪問研修を通して、シニア人材の地域貢献意識を育む「プラチナ・ギルドアカデミー」も開催しています。
<http://platina-guild.org/>

地産地消の食材を介した地域情報の発信、空き家を活用した交流カフェの運営など、営利・非営利を問わずお金だけではない“利益”や“循環”を生み出す活動が増えています。こうした地域の小さな経済を、無理ないかたちで生み出す「シビックエコノミー」のポイントを習得しながら、活動の始め方や関わり方を具体的に考える入門講座を開催しました。

今回は渋谷区恵比寿にあるフィルムアート社様のご協力により、同社発行の『日本のシビックエコノミー』をベースとした講座企画が実現。講師も執筆者である編集家でプロジェクトエディター、デザインプロデューサーの紫牟田伸子さんと、コトラボ合同会社の岡部友彦さんにご登壇いただき、横浜市寿町にある「ヨコハマ・ホステル・ヴィレッジ」の事例をベースに、シビックエコノミーに必要な「循環」の仕かけや小さな経済を自分たちで回しながら活動を自立に導くポイントを浮かび上がらせていきました。

「概念としては新しくまだ確固とした定義付けが難しい」「自分たちがし続けてきた長きにわたる活動自体に変わり



ないけれど、周囲によって規定される定義が千変万化してきた」と岡部さん。シビックエコノミーもそうした新しい概念の一つなのかもしれません。後半は“これからの〇〇”を実現するアイデア！を考えるワークショップ。「これからの起業/居場所/ OMATSURI /



福祉の仲間づくりを実現するアイデア！」など面白いアイデアが次々と出ました。こうした循環生み出せるような区内のシビックエコノミーにも注目していきたいと思います。

「Impact Hub Kyoto」（京都）が運営する情報サイト「Civic Economy Lab」でも、この講座の様子が掲載される予定です。
<http://civic-economy.impacthubkyoto.net/>

協働マガジン

17

Kyodo Station Chuo

区内の活動情報、募集中!

登録団体インタビュー vol.1

きょうだい支援を通じて 親では気づけない 子どもの気持ちに寄り添いたい

「NPO法人こどものちから」は、中央区築地を活動拠点に、がんや難病の子どもとその家族の生活の質の向上をめざして活動している団体です。通院や面会目的で来院するきょうだいを預かり遊びを提供したり、患者とその家族を支えることで、安心して治療に取り組める環境づくりをしています。

NPO 法人こどものちから(築地)

代表 井上るみ子さん

三男の闘病生活と長女の想い

1997年、三男(当時13歳)がユーイング肉腫を発症。国立がんセンター中央病院小児科で9ヶ月間闘病生活を送りました。後になり、その間長女(当時10歳)が抱いた思いや家族の葛藤を知り、我慢を強いて気持ちに寄り添えていなかった反省から、きょうだい支援の必要性を感じたといいます。親の会(COSMOS会)との出会いや支えもきっかけになり、その後代表を6年間務め、団体設立に至りました。

遊びや交流ができる待合室

中心メンバーは同様の経験を持つ家族。活動場所は、国立がん研究センター中央病院小児科病棟の待合室。病棟には入れないきょうだいの子どもたちを預かって遊んだり、家族が交流できる場づくりもしています。最近では医療者側から「ご両親と治療方針について話がしたいので、その間お子さんをお願いしたい」という要望もあります。



傷ついた心に寄り添う

「病児だけでなく、きょうだいもまた状況が理解できず、自分の感情を抑え、病気になったのは自分のせいと責めて傷ついてしまう。そうした時に“あなたも頑張っているよね”“同じように大切な存在だよ”“おもいっきり遊んでもいいんだよ”と寄り添い理解することが大切」と井上さんは言います。

「今後は、きょうだいとその家族の支援の必要性をより一層浸透させていきたい。実はそうした子どもの気持ちは病児に限らない。今後は地域と関わり、保育や教育の現場でもきょうだい支援の重要性を伝えていきたいです」。



<http://kodomono-chikara.org/>

協働マガジン 17

協働ステーション中央は、(特活)NPOサポートセンターが中央区からの事業委託により運営しています。

協働ステーション中央

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町5-1 十思スクエア2階

TEL : 03-3666-4761 FAX : 03-3666-4762

E-mail : info@kyodo-station.jp

中央区社会貢献活動情報サイト : <http://chuo.genki365.net/>

開館時間 : 火曜～日曜 10:00～19:00 ※会議室利用のみ 9:00～21:00 (要予約)

休館日 : 月曜、年末年始、施設点検日

交通 駐車場はありませんので、車での来場はご遠慮下さい。
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅4番出口徒歩3分。江戸バス北循環「小伝馬町駅」下車徒歩4分



協働ステーション中央 サポートメニュー活用術 情報収集 & 発信 編

協働ステーション中央では、ボランティア・市民活動団体、企業、町会・自治会などの「社会貢献活動団体」間をコーディネートしています。今回は、活動に関する情報を収集・発信するツールをご紹介します。

中央区社会貢献活動情報サイト

<http://chuo.genki365.net/>

- 登録すれば団体ページを無料で持つことができます。
- ID/パスワードで、どこからでも自由にイベント等の募集情報や寄付やボランティア募集の呼びかけ、開催報告等を掲載できます。
- 区内で活動する団体等も検索でき、連携・協働のきっかけにすることができます。
- 協働ステーション中央登録団体は、会議室の空き室状況も確認できます。



協働マガジン

- 年4回発行の情報誌です。
- 区内各公共施設で配布しています。
- NPO、企業、町会・自治会等における社会貢献活動を紹介しています。また、協働ステーション中央の支援メニューの活用術や、コーディネート事例の紹介等も掲載しています。
- 取材や配架にご協力いただける団体や企業も随時募集しています。詳細は、協働ステーション中央までお問合せください。

メールマガジン

- 毎月15日に配信。登録約3,000名。
- 協働ステーションからのお知らせや団体活動に資する情報、登録団体主催のイベント等を配信しています。
- 掲載情報も随時募集中です。締切は毎月1日。ルール等の詳細は協働ステーション中央までお問合せ下さい。

Facebook/Twitter

- 定期更新しています。
- 協働ステーション中央や登録団体等主催の講座・イベント等のお知らせや、助成金やセミナー等の団体運営に資する情報を配信しています。
- 地域課題の解決に必要な区政情報、メールマガジンで配信できない情報なども配信しています。

チラシ配架

- 区内の社会貢献活動に関するチラシ・リーフレット等を配架しています。
- 活動人材の育成に関する情報や助成金情報、活動を円滑にするITツールの紹介パンフレット等も配架しています。
- 配架をご希望の方は、20部を協働ステーション中央までお送り下さい。持参も承ります。
- 届いたチラシ等の情報は、FacebookやTwitterでも配信しています。



協働ステーション中央では、区内企業の社会貢献活動を取材しています。今回は日本橋でチームやコラボレーションを支援するグループウェアを開発・提供する「サイボウズ株式会社」の和泉純子さんに、プロジェクト運営をスムーズに行える支援ツールについてお話を伺いました。

企業取材 第13回

サイボウズ株式会社(日本橋)
マーケティングコミュニケーション部
サイボウズLive プロモーションディレクター
和泉 純子



■Q 御社の取り組みを教えてください。
弊社は、NPOなど様々な組織でチームワークを生み出すための情報共有ツールを提供している企業です。活動するメンバーとチームワークを生み出すためには、業務効率向上だけでなく、ノウハウの蓄積、学習そしてメンバーの満足が欠かせません。私たちが開発するコラボレーション・ツールはその役割を果たしています。

シェアNo.1 シェアNo.1の2大グループウェア ※

サイボウズ Office

中小企業シェアNo.1だから誰でも使える

Garoon

エンタープライズ向けのきめ細やかな管理機能を搭載

ビジネスアプリ作成

kintone

データベースをいまずぐ作ってみんなで共有

メールワイズ

メール対応を共有するグループメーラー

資料をクラウド上にあげることで共有という概念が生まれ、進捗確認のためのやりとりが格段に削減できたそうです。

■今後の事業展開について教えてください。
今後も、限りある時間や労力をより多くの社会課題の解決にあてていただけるよう、サービスの改善を行ってまいります。

サイボウズ
<http://cybozu.co.jp/>

■NPOが利用できるメニューには、どのようなものがありますか？
無料グループウェアの「サイボウズLive」や、サイボウズの有料クラウドサービスを50ユーザー・年額1万円(税抜)で提供する「サイボウズNPOプログラム」があります。NPO活動をする方の中には、「全員で集まれない。メールのやりとりに限界。」「メンバーの入れ替わりが激しく引継ぎが大変。」「便利なWebツールを入れたいのにITが苦手な人がいる。」などの

課題を抱えています。私たちが提供するツールは、そうした課題を解決し、活動する上で煩雑化した業務を効率化してくれます。

■どのようなシーンで利用されているのでしょうか？
事務所を構えて活動していたNPO団体が事務所を無くし、サイボウズ製品上でやりとりをしているという事例もあります。今まで個人端末に保存しがちだった



協働ステーション中央では、NPOの組織基盤を強化するため、「サイボウズLive」「サイボウズNPOプログラム」の詳細パンフレットを配架しています。